様式1

令和2年度　ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する 浮島小学校プラン

《学校の教育目標》　「ふるさとを愛し，夢にチャレンジする子ども」の育成
〈本年度 学校の重点目標〉 少人数・複式のよさを活かし，主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

生きて働く知識・技能を習得し，関連，組み合わせ等をしながら，学習や生活の中で活用できる。【つくる力】

考えの共通点や差異点を理解したり考えのよさを取り入れたりして，協力して問題を解決できる。【つなぐ力】

夢や目標をもち，自分と他者への理解を深め，よりよくするために，最後まで努力することができる。【つらぬく力】

学びをつなぐ授業

①対話活動を重視し，「めあて」「解決の見通し」「まとめ」「振り返り」のある日常授業の推進と評価改善を図る。

②課題解決の方法や内容の見通しをもって，絵図等に視覚的に表現しながら，主体的・対話的な学びを深める。

③ICTを活用して，教材の提示及び情報収集，学びの記録，まとめ等の表現力や問題解決力の育成を図る(週1回)。
【成果指標】「授業で週1回以上コンピューターなどのICTを使用している」と答える教師評価を3ポイント以上に

④教員個々のスキルアップ研修の実施と教材の作成（学期に1回），ペアで自分の思いや考えを外国語で伝え合う活動を行い，子どもたちの関心・意欲の向上を図る（外国語　毎時間）。

笑顔の先生

①子どもの自尊感情を高めるための「他者評価」を重視した主題研による実践的指導力の向上を図る。

②会議の目的と時間設定が適切かを見直す。特に，終了時刻の明確化と提案資料の精選を行う（毎回）。
【成果指標】「先生は分かるまで教えてくれると答える児童の割合が80%以上

協働する学校・家庭・地域

①学力の保障と向上の課題を解決するため，子どもたちに配布した家庭学習の手引きを活用して，学習の定着や強化を図る（学び方のすすめ，全校はげみ後のつなぎ）。

②学校・家庭・地域が連携して，スローメディアの取組を推進する（スローメディア重点週間の設定と評価）。

③学園コミュニティの共通実践として，小・中の学力向上のために，家庭学習の充実について統一を図る。

楽しい学校

①「くるめアクションプラン」の共通理解と初期対応を徹底する（毎日）。校内生徒指導委員会で，ケースに応じた対応策を検討し，全職員で共有する（月1回以上）。学校での生活状況や悩みを把握し，SCやSSWとの連携を図る。
【成果指標】不登校数　1名以下。いじめの認知件数が5%増加

②毎月1回の安全点検の確実な実施と管理職への報告・連絡・相談の徹底。運営集会委員会が主体となった「廊下の通り方」などを全校に伝え，全校児童で取組を行う（毎月1回）。

③農業体験活動や給食を中心とした縦割り班活動の実施。特に，教師による活動の観察指導の徹底とよさの賞賛。生活アンケート等により相互評価する活動を行う（毎月1回）。

【体力向上】

①体育の時間のはじめに，総合的な体力向上のためのサスケサーキットの取組を推進する（随時）。

②My一輪車の取組と毎月1回の検定の実施。運動会での全校発表（**「1校1取組」運動**）。
・体力アップシート活用率：目標　100%
・スポコン広場登録学級数：目標　4学級

【あいさつ・そうじ・自学自習】

①月のめあてとして「す・え・あ・お」挨拶を設定し，徹底を図る。全校朝会で評価を行う（毎学期）。

②「さ・し・す・せ」そうじの徹底を全校朝会で確認し，取組のよさに重点をおいた評価を行う（毎月1回）。

③「家庭学習の手引き」を配布し，学年ごとのメニューに沿って実施・評価する。特に，スローメディアの取組と合わせて重点週間を設定し，実践を進める（毎学期）。

基盤として大切にすること（本年度の重点）

【人権・同和教育】「人権・同和教育の視点に立った指導のポイント」を活用して，確かな学力と豊かな人権感覚の育成を図るための「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を行う。　〔要綱 P82～参照〕

【特別支援教育】「個別の支援計画」「個別の指導計画」を活用し，ニーズに合わせて，特別支援教コーディネーターやSCやSSWと連携した協働的な教育的支援を日常的・継続的に行う。〔要綱 P87～参照〕

【キャリア教育】職場体験や未来パスポートを活用し，個々の伸びや夢の具体化を認め合う。〔要綱 P112 ～参照〕